



伊福よしはる

宝塚改革プロジェクトNEWS Vol. 1

発行: 伊福よしはる
住所: 宝塚市福井町19-12
TEL/FAX: 0797-72-3626

ごあいさつ

さきの選挙は、新人・無所属候補には大変厳しい選挙でした。実際、新人・無所属で当選したのは、私だけです。これも、みなさまの多大なる応援があったからこそです。ありがとうございます。2378票という大きな期待に応えるよう全身全霊を尽くしてまいります。

私は、10年間、民間企業で勤めてきました。私の公約は「民間企業の経営感覚で宝塚を変えていく。」というものです。今後、この公約どおり「民間企業の経営感覚で、行政を運営する」という視点で議員活動を行ってまいります。

行政を「運営する・改革する」そのためのポイントは、「より安いコストで、より良いサービスを提供する。」ことだと思っております。民間企業は、これを達成するために必死で努力を積み重ねております。行政においても、このような民間企業の感覚が絶対に必要だと思います。今後、行財政改革を行っていくうえでの基本理念としたいと思っております。



気になる話題

宝塚市の借金、いくらか知っていますか？

宝塚市の借金は、約900億円です。

主な原因は、震災時に発生した543億円ですが、平成12年から借金は一向に減少していません。この負の遺産を次代の子供たちに残さないためにも、今の大人たちが頑張らなければなりません。そのために、私は政治家を目指しました。

バブルがはじけてから、市役所が行っている改革は、予算・人員・組織のスリム化ばかりです。この方法も限界にきています。これからは、単に人員削減、公共事業費削減ではなく、いかに効率的に行政サービスが提供できるかがポイントになってきます。そこで、必要になってくるのが民間企業の経営感覚なのです。行政を運営するという考えのもとに、民間企業の目標管理やTQM（生産性改善活動）の手法を取り入れる必要があります。英米ではTQMの手法を取り入れ、成果を上げています。実際に、福岡市でも、大きな実績を上げています。（書籍：自治体DNA革命—日本型組織を超えて より）

今、900億円の借金を返すために、宝塚市に必要なのは、民間企業の経営意識です。市民というお客様のために、常に現状より高い目標をたて、それを達成するために努力する。その結果、宝塚ブランドが復活するのではないのでしょうか。伊福にご声援を！

平成19年6月 定例市議会 伊福よしはるの一般質問及び答弁の概要

公園及び遊具の 安全性について

<伊福よしはる>

最近大きく取りざたされた報道に、万博記念公園でのジェットコースター事故がある。長期間、安全点検をしなかったため、事故が発生した。

公園の事故では、6月に東京都足立区でタイヤブランコが落下し、女兒3人がケガをしている。それも、事故が起こった遊具に対して「重要部分に異常が見られ、危険な状態で至急対処が必要」とする結果が今年3月末に出ていた。事故のあった遊具はまだ点検が、終わっていなかった。足立区の土木部長は「早急に再点検すれば防げた事故で、申し訳ない」と謝罪している。

これらの事故から、早急に対策が必要だ。公園全体の管理体制についても同様に対策すべきだがどうか？

<市 長>

遊具の安全点検の実施状況は、5年に1度。市内の公園の維持管理は、清掃や除草をしている地域自治会や団体に対してモデル地区を設定し、遊具の点検報告を含めた公園ボランティア制度を立ち上げたところ。現在、約30団体が活動している。公園ボランティア制度のさらなる拡充を図っていきたい。

<伊福よしはる>

事故は待ってくれない。自治会、コミュニティに公園管理を任すなら、早急にその方針をまとめるべき。遊具など、公園内での不備があったときや、事故があったときの連絡先、対応方法を記載した掲示板を早急に設置すること。

<秋山建設部長>

すべての公園に対して、できるだけ早く啓発的な看板など連絡先を明記したものを早急に対応していきたい。

(右中段に続く)

お年寄りが元気で楽しく 暮らせるための施策

<伊福よしはる>

ますます進む高齢化社会、地域で老後を安心して楽しく暮らせる施策が必要である。現状の取り組みとその成果は？お年寄りが元気に集まることができる場所づくり及び補助金などの助成ができないか？

<市 長>

介護予防と相互生活支援という観点から地域を基盤とする高齢者の自主的な組織である老人クラブの活動及び役割が期待される。市では、老人クラブに対し、活動助成を行っている。お年寄りが集まることができる場所作りは、公民館、福祉センターなど多数の方が使用している。

<伊福よしはる>

主に地域で集まっているのは、自治会館である。近隣の自治会館は狭く、すべてのお年寄りが入れない。改築するにもお金がかかる。市民もがまんしている。子どもが減少している学校の教室などを有効に使うべき。財政面も考えて、今ある公共施設をもっと有効活用すべきであると要望。

<伊福よしはる>

地域と話し合う機会を作り、今後の管理体制を早急に検討すべきである。



木造の遊具(古くなるとケが出てくる)

行財政改革について

<伊福よしはる>

今後、市役所の各部署は、市民に対し、各部署の施策や事業の必要性、進捗状況をこれまで以上に明確にしていく必要がある。各部署の事業の見直しや事業のアピールに際して、定性的な主張を中止とした事業説明で終わってしまってはいけない。これからは、結果を一定の基準に従った数値で示し、それに基づいた客観的な評価を取り入れながら、検証すべき点はきちんと説明していくという取り組みが不可欠である。

現在の現金収支のみ管理する現金主義の会計制度では、事業毎の正確なコスト管理ができない。バランスシート、行政コスト計算書も作成しているが、決算情報を組み替えただけなので、財務諸表の信頼性も十分ではなく、事業別のコスト計算ができないなど、マネジメント機能の強化や説明責任の充実を十分に発揮することができない。コストに関するマネジメント機能強化のためにも、予算重視から、予算そして、決算重視の会計制度改革の可能性について、どう思われるか？

<横田行財政改革担当部長>

現在の会計制度は、必ずしも十分ではない。民間の知見を活用しつつ、より多角的な視点で財務分析について工夫していく。

<伊福よしはる>

東京都は民間企業の会計制度を導入し、マネジメント機能の強化に活用しております。今後、自治体を経営するという観点から、いろんな自治体が現在の現金主義における会計制度の限界を感じ、民間企業の会計制度の可能性を検討している。900億の借金を返済するという観点からも会計制度改革は必要である。

予算の使い切り抑制することについて。

行政は、予算を重視している。予算を消化すれば、計画通りのモノができるという発想である。しかし、これからは、経営するという視点が必要である。自治体を経営するためには、より安いコストで、より良いサービスを提供しなければならない。民間企業であれば、予算はあくまで、経営

(右上に続く)

上の数値であり、そこから更なるコストダウンが求められる。行政も今後、行政経営を行っていく上で、このような考えが必要である。予算の使い切りを抑制する事に関して、どういう対策を行っているか？

<市長>

担当部局長が、市の財政状況を共有しつつ予算編成を行うことが重要である。各部署が主体的に施策選択を行えるよう編成の方針の改革を行ってきた。

<伊福よしはる>

予算の使い切りを抑制した職員を評価するシステムが必要である。挑戦や努力をした職員をきっちりと評価し、やる気を出して職務を遂行することが、結果として市民のためになる。システムの構築を要望。

人材育成基本方針について

<伊福よしはる>

宝塚市人材育成基本方針の中に「挑戦する組織風土、挑戦する職場風土」という言葉が書かれている。今本当に必要なのは、改革に向かってこの「挑戦する」という姿勢である。基本方針の表紙にも「めげしません！お役所のプロではなく、市民サービスのプロを！」と書かれている。お役所仕事から、市民が望むサービスのプロを目指すには、この「挑戦する」という言葉がキーワードになる。

「挑戦する組織風土、職場風土」を確立するための具体的な取り組み状況は？

<市長>

人事諸制度が効率的に機能し、かつ互いに連携する人材育成システムを構築するため、職務において発揮した能力、組織への貢献度、目標の達成度などを評価する人事評価制度を導入するほか、職員のやる気を喚起するよう取り組んでいる。

<伊福よしはる>

改革が進んでいる福岡市は、挑戦した職員を正しく評価するシステムがある。正しく評価されるからこそ、職員も挑戦できる。職員全員が市民サービスのプロとなれるよう、仕組み作り、システム作りが必要である。トップダウンで是非実行するよう要望する。

丸わかり！議会ニュース

～ 議会では、こんな内容を議論しています ～

便利な自動交付機が…否決



住民票などの自動交付機

私が選挙期間中に訴えかけていた、住民票などを作成する自動交付機が、今回の議会で補正予算として提出されました。設置台数は5台。各サービスステーションと市役所に設置される予定でした。市役所内にある防災センターは24時間運営されています。その横に1台設置されれば、24時間、住民票などを取ることができます。サラリーマンの方は、特に便利だと思うのですが、いつでも住民票が取れるというのは、非常にありがたいサービスです。かつ、人が行っていた単純作業を機械に置き換えることにより、人件費の削減につながります。平成23年には、6人削減できる計画なので、単純に1年間約4200万円の人件費削減になる予定でした。

しかし、自民党、民主党、共産党、社民党、爽新会の反対により、実現できませんでした。今回、国からの補助金が出ていましたので、市としては半分以下の支出で設置できる予定でした。国からの補助金制度に反対したため、今後、補助金が出るかどうか、分かりません。私は、今後とも市民のサービス向上かつ無駄な費用を削減できるような活動に満身創痍、努力していきます。

アピアの再々開発 開始

逆瀬川アピアは、キーテナントである「リヴィン」の撤退により来客数が減少。市は、中心市街地活性化基本計画を策定し、アピアの再生に乗り出しました。駅前商業ビルの再開発は、全国的にみても成功しているケースは少ない状況です。その原因は、区分所有の問題があります。区分所有者は約180人にのぼるため、閉店時間がバラバラだったり、商品構成も統一感がなかったりと魅力的な店舗作りができませんでした。

今回、再開発するにあたり、宝塚市まちづくり(株)を設立しました。新会社は、区分所有の問題を解決するため、すべての床を買い取るか、借り上げる予定です。これにより、計画的に魅力ある店舗を誘致できます。また、4,5階には、市民が集まれるコミュニティーモールが設営されるため、人が集まる仕組みができます。

アピアの事例は、先進的な試みで、成功すれば全国的なモデルケースとなります。今後のアピア再生が宝塚の再生にもつながります。宝塚市全体で、盛り上げていきましょう。



逆瀬川アピア

●伊福よしはるサポーター会員を募集しています。

伊福よしはるの活動は、ボランティアのみなさんによって支えられています。チラシのポスティング、郵便物の発送作業など、お手伝いして頂きたいことが日に日に増えております。皆様のお力を少しでもお貸し下さい。ご連絡お待ちしております。

(0797-72-3626まで)

●6月の定例会市議会の様子が、FM宝塚で放送されます。

伊福の一般質問

7/25 (水) PM1時～

FM宝塚 (83.5MHz)

